



# なかよく かしこく 元気よく

12月号

令和5年

12月22日

文責 黒木幸博

## 今年は、皆さんにとってどんな年でしたか

私は、一言で表すなら「チャレンジ」の年でした。50年以上生きてきたというのに、毎日「初めて」ということが多く「チャレンジ」の連続でした。いい経験ができ、自分自身、少しでも成長を感じた1年間でした。

今日の終業式で、3年生の淵上叶空さんが2学期を「運動会や持久走大会をがんばり、あきらめない心が高まった」と自分の成長を感じていました。(1年生の多良木堇さん、5年生の河本悠斗さんもしっかりと自分を見つめたすばらしい発表でした。)

冬休み(年末年始)に、「成長した自分」を感じたり、「これから頑張ること」を決意したりして、新たな気持ちで新学期をスタートしましょう。



## 性に関する指導月間

12月21日(木)小中合同(5、6年生参加)の教育講演会「今伝えたい性の話」がありました。(講師:中村和可子さん(NPO法人せいしとらんし熊本理事長))

中村さんが「男らしさ女らしさではなく、あなたらしさ」「大人になるというのは、『助けて』と言えるようになること」などの話がありました。

12月15日(金)には、2年生と5年生が「性に関する講話(福田病院助産師さんの話)」を聞きました。「命の大切さ」を感じることができました。



## 1月の予定

1月9日(火) 始業式

1月12日(金) 英語検定チャレンジデー

## 校長より part1

12月3日(日)、熊本市内であった「北朝鮮拉致問題解決に向けた講演会」に参加しました。

1970年代(私が生まれたころ)、日本人が不自然な形で行方不明になった事件が続きました。それから約30年後の2002年、事件は動き始め、北朝鮮が拉致を認め、5人の日本人が帰国しました。しかし、その後はなかなか進展せず、まだ多数の日本人が北朝鮮から戻ることができていません。

今回は、拉致被害者の一人、横田めぐみさん(拉致1977年、当時13歳)の弟、横田拓也さん(当時9歳)の講演でした。突然いなくなった姉、事件日以降の急変した家の様子、そして45年たった今も苦しい状況が続いていることなどをお話しされました。

長い年月が経ち、被害者、被害者のご家族は高齢となっております。一刻も早く解決しなければならぬ問題です。

私たちにできることは何か!まずは、この問題を知ることです。保護者の皆様には、ぜひ子どもたちに教えていただきたい。当時どのようなことが起き、現在どのようになっているのか。そして、これから自分たちには何ができるのか。この冬休み、家族で考える、話し合う時間があるといいなと思います。

日本人として、日本という国を守るために。

## 校長より part2

12月21日(木)、PTA総務委員会の方々と同松づくりを行いました。

門松は神様を家に迎え入れるための依代(神霊がよりつく対象物)という意味合いがあります。「松は千歳を契り、竹は万歳を契る」と言われ、松と竹で神の依代の永遠を願います。また、南天は“難を転じる”という語呂合わせ、葉牡丹の花言葉には「祝福」「物事に動じない」「利益」があることから、門松によく使われます。

